

女医生涯 町挙げ映画支援

豪雪地帯として知られる山形県西川町大井沢で、生涯を地域医療にささげた女医、志田周子（1910〜62年）を描く映画「いしゃ先生」の制作が、民間主導で進められている。10月から撮影に入り、町民もエキストラなどで参加。来年秋の公開予定だ。

周子は東京女子医学専門学校（現東京女子医大）卒業後、付属病院勤務だった昭和10年、旧大井沢村の村長だった父親から「3年だけいいから帰ってくれ」と頼まれ24歳で帰郷した。無医村での診療は、経験不足や機器の不備もあって苦勞。母親の死去で弟たちの母親役をしたこともあり、独身を通し、生涯を地域医療にささげた。

月山のふもとの豪雪地帯で、周子は「一昼夜に1日も積もることもあり」「かんじき」では行けなかったため、スキーを習ったりもした」と往診の苦勞を回想も。村議（のちに西川町議）も務め、34年には「保健文化賞」（第一生命保険主催）を受賞している。

生誕100年の平成22年に、周子の生涯を学ぶ学習会が町内で開かれたことなどをきっかけに、映画化が具体

地域医療に尽力 志田周子

化。25年2月、地元の民間組織「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」（会長・阿部幸一月山朝日観光協会会長）が発足し、制作費の募金もスタートした。

脚本は尾花沢市出身で東京在住のあべ美佳さん、監督は永江二朗さん。周子役の平山あやさん、父親役の榎木孝明さんらで撮影が始まり、冬のシーンは年明けに撮影される予定だ。

制作には町民も積極的にかわり、元の診療所の改修に協力したり、古着を集めて昔



診療所で保健文化賞を手にする志田周子
|| 昭和34年9月（西川町提供）



山形支局 本間篤

の衣類を任立てたりした。保健文化賞の受賞シーンの撮影では、エキストラとして200人以上が当時の衣装で参加した。

あべさんは「周子の生き方も見てほしいが、実際の地域医療が当時とほとんど変わらないうちも感じてもらうえれば」と話している。完成後は映画祭への出品を目指すという。テレビドラマの「おしん」並みに、全国に周子が知られる日が来るかもしれない。

制作費の募金方法は志田周子ホームページ（<http://www.sidachikako.com>）に掲載している。



保健文化賞の受賞シーンは、町民らがエキストラ参加した